

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第13集

KAMI TAKA YAMA

上高山遺跡II

長野県佐久市長土呂芝宮遺跡群上高山遺跡II調査報告書

1992

佐久市教育委員会
佐久埋蔵文化財調査センター

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第13集

KAMI TAKA YAMA

上高山遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂芝宮遺跡群上高山遺跡Ⅱ調査報告書

1992

佐久市教育委員会
佐久埋蔵文化財調査センター

例 言

1 本書は、神津鶴雄氏による貸し工場建設に伴う、芝宮遺跡群上高山遺跡Ⅱ発掘調査報告書である。

2 調査委託者 神津鶴雄

3 調査受託者 佐久市教育委員会、佐久市埋蔵文化財調査センター

4 発掘調査対象地番および面積 芝宮遺跡群上高山遺跡Ⅱ (NSKⅡ)

佐久市大字長土呂字上高山848-1

調査対象面積1,657㎡

5 調査期間 試掘調査 平成3年7月24日

発掘調査 平成3年8月2日～平成3年8月9日

整理作業 平成3年12月2日～平成4年2月28日

6 事務所および調査団の構成

(事務局) 佐久市教育委員会埋蔵文化財課

教育長 大井季夫

教育次長 奥原秀雄

開発公社事務局長 佐々木正泰

課長兼所長 上原正秀

管理係 桜井牧子(係長)、関口美咲、山崎明、渡辺紀美子

埋蔵文化財係 草間芳行(係長)、高村博文、林幸彦、三石宗一、須藤隆司、

小林真寿、羽毛田卓也、竹原学

(調査団)

団長 黒岩忠男(佐久考古学会副会長)

副団長 藤沢平治(佐久市文化財議委員、日本考古学協会員)

調査担当者 林幸彦 調査主任 佐々木宗昭

調査員 遠藤しづか、江原富子、小田川栄、小田川時江、金森治代、神津つねよ、
小林よしみ、小林幸子、堺 益子、清水六郎、角田 時、角田良夫、
長岡喜代人、成沢富子、並木ことみ、羽毛田香里、橋詰信子、花岡美津子、
星野良子、宮川百合子、柳沢千賀子、和久井義雄、渡辺久美子

7 報告書掲載図面等の作成は、堺益子、橋詰信子、羽毛田香里が、編集・執筆は林が担当した。

8 本調査に関するすべての資料は、佐久市教育委員会が保管している。

本文目次

挿図目次

例言	
本文目次	
挿図目次	
第I章 発掘調査の経緯	
第1節 発掘調査に至る動機	1
第II章 遺跡の位置と周辺遺跡	
第1節 上高山遺跡IIと周辺遺跡の分布	2
第III章 発掘調査の概要	
第1節 基本層序	3
第2節 調査された遺構	3
第IV章 調査の記録	
第1節 遺構と遺物	4
第2節 遺構と遺物の実測図	7
第V章 調査の成果	13
写真図版	
第1図 上高山遺跡II位置図	1
第2図 上高山遺跡II周辺遺跡分布図	2
第3図 上高山遺跡II基本層序模式図	3
第4図 H1号住居址実測図	7
第5図 H1号住居カマド址実測図	8
第6図 H1号住居址出土土器実測図	8
第7図 H1号住居址出土鉄器実測図	8
第8図 H1号住居址出土紡錘車実測図	9
第9図 H1号住居址出土石器実測図	9
第10図 F1号掘立柱建物址実測図	9
第11図 F1号掘立柱建物址出土石器実測図	9
第12図 F2号掘立柱建物址実測図	10
第13図 F3号掘立柱建物址実測図	10
第14図 F4号掘立柱建物址実測図	11
第15図 F5号掘立柱建物址実測図	12
第16図 D1号土坑実測図	13
第17図 D2号土坑実測図	13
第18図 D3号土坑出土石器実測図	13
第19図 表採遺物実測図	13
第20図 上高山遺跡II全体図	14

第 I 章 発掘調査の経緯

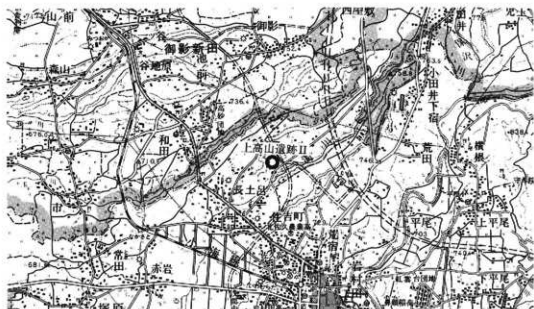
第 1 節 発掘調査に至る動機

上高山遺跡Ⅱは、小諸市境にほどない佐久市の北部に位置する。標高730mを測る。東に隣接する上高山遺跡Ⅰは、国道141号バイパス工事に先立ち記録保存調査されており、古墳時代と平安時代の竪穴住居址2棟などが検出されている。また、付近を上信越自動車道が通過し、近接してインターチェンジができるため、アクセス道路、流通業務団地、区画整理などの大規模開発が連続し、遺跡の記録保存調査が相次いで行われている。

このたび、神津鶴雄氏が貸し工場を建設することになり、平成3年7月24日に事前の試掘調査を実施した。その結果、調査区の北側に集中して竪穴住居址1棟や孤立柱建物址などの遺構が確認された。

保護協議の結果、削平される開発対象地北側部分約1,000㎡について記録保存のため発掘調査を実施することとなった。

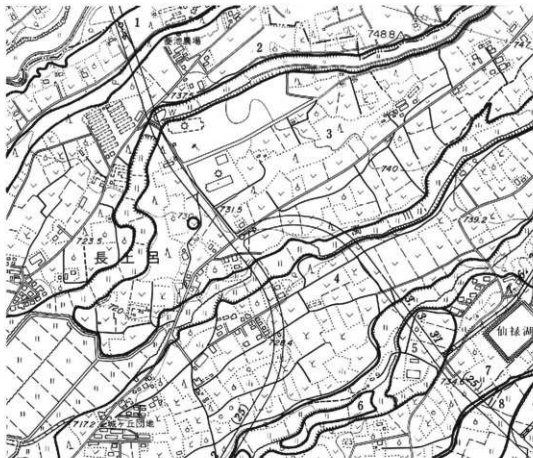
調査は、神津鶴雄氏からの委託を受けた佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財センターが実施するはこびとなった。



第 1 図 上高山遺跡Ⅱの位置 (1:50,000国土院地形図による)

第II章 遺跡の位置と周辺遺跡

第1節 上高山遺跡IIと周辺遺跡の分布



第2図 上高山遺跡II周辺遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧表

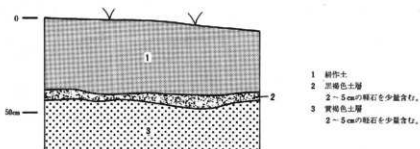
No	遺跡名	所在地	立地	時代					備考	
				縄	弥	古	奈	平		中
1	近津遺跡群	長土呂	台地	○	○	○	○	○	○	北近津遺跡調査
2	周防堀遺跡群	長土呂	台地	○	○	○	○	○	○	周防堀A遺跡、周防堀B遺跡、若宮遺跡調査
3	芝宮遺跡群	長土呂	台地	○	○	○	○	○	○	芝宮遺跡群第1次～3次調査
4	長土呂遺跡群	長土呂	台地	○	○	○	○	○	○	聚塚遺跡、上聚塚遺跡、下聚塚遺跡、上大林遺跡調査
5	管根新城跡	長土呂	台地					○	○	
6	新城遺跡	岩村田	低地			○	○	○		
7	枇杷取遺跡群	岩村田	台地	○	○	○	○	○		上直路遺跡調査

第三章 発掘調査の概要

第1節 基本層序

第3図の層序模式図に示したように、1層は黒褐色の耕作土で層厚は約40cmを測る。2層は黒褐色土で2～5cm大の軽石を含み、調査区の西側に顕著に認められた。3層は、黄褐色のローム層で、遺構の確認はこの層の上面でなされた。

調査区を北東から斜めに覆う黒色土は、旧小河川の上部に堆積したもので、低地状の地形となっている。この古い小河川の流路は、浅間第1軽石流に覆われた一帯に顕著な「田切り地形」上に形成されたもので、岩村田や長土呂一帯の発掘調査の際によくみられるが、数時期に渡って形成されたことは遺構との重複関係で明らかである。本遺跡のH1号住居址および掘立柱建物址の一部は、この層の上部に構築されている。したがって本遺跡でみられた黒色帯は、奈良時代以前に形成されたといえる。



第3図 上山遺跡Ⅱ基本層序模式図

第2節 調査された遺構

検出された遺構は、奈良時代の竪穴住居址1棟・掘立柱建物址1棟、奈良時代以後の掘立柱建物址4棟、江戸時代末の土坑2基・井戸址1基、時期不明の土坑1基である。

遺物は、土師器甕・坏・器台、須恵器甕・坏、石製品、紡錘車、石織、陶磁器、瓦などが出土した。

第IV章 調査の記録

第1節 遺構と遺物

1) H1号住居址(第4~9図, 写真図版二・四)

調査区の北側中央から検出された。F3号掘立柱建物址に床面の一部を破壊されている。住居址南部覆土内には、瓦・陶磁器・鉄器が投げ捨てられたとみられる江戸時代末の土坑が確認された。土坑底面は、住居址床面に達していない。南北6.4m東西6.4mの隅丸正方形を呈する。壁残存高は、28.5~48cm、南北軸方向N-25°-Wを測る。床面は南壁直下を除き堅緻であった。床面下の掘り方は、四方の壁寄りが30cmと深く、中央付近は浅い。貼り床は基本層序第3層にみられる明褐色のロームを主として用いている。支柱穴のP1・P2・P3・P4が方形に配され、深さはそれぞれ44・45・48・62cmである。P7・P10は東壁内に、これに対応した位置の西壁にはP3・P4があり、住居の上屋に関係する柱穴であるうか。深さは41~52cmを測る深いものである。

南壁中央直下には、深さ25cmの一对のピットが検出された。入り口に関する施設であろうか。

住居西南端には径50cmのピットがみられ、底面から10cm浮いた状態で黒色多孔質安山岩が出土している。この礫の上端と床面とはほぼ同一の高さとなっている。

壁溝が南壁中央付近を除く壁下に認められた。幅12~20cm深さ3~12cmを測る。

覆土はほぼ黒色土一層であり、一部壁際には壁崩れと考えられるローム粒子を含む暗黒褐色土が認められた。北壁寄りにはカマド構築土等の粘土や焼土が含まれている。

カマドは、北壁中央に設置されていた。新旧のカマドが認められ、旧カマドの左側の袖部と新カマドの右袖の位置は一致している。新カマドも使用時の姿を留めておらず僅かに面どり軽石を芯にした袖部の一部と火床が残存していた。焼土の状況から煙道部・火床ともいったん掘りくぼめた後、褐色の粘土と褐色土を埋めて深さや立ち上がり方を調整している。火床の掘り方が貼り床を切っていることから、床の整地後にカマドが構築されたといえる。

出土遺物には、須恵器の蓋・坏・長頸壺・甕、土師器の坏・甕・器台、馬具、石器等がある。図示不可能なものでは土師器の甕が多い。胴部片だけで断定はできないが外面縦方向・内面横方向の粗いハケメ状の調整がなされた在地の整形とは異なった甕もみる。

本住居址はくの字状口縁の土師器甕、底部手持ちヘラケズリの須恵器坏がみられ、奈良時代前半に位置づけられよう。なお、第6図5の器台の類例はあまりみかけないものである。

第8図は、滑石製の紡錘車でカマド西側の床面より出土した。径4.1cm・厚さ1.8cm・孔径0.7cm

を測る。第7図は鉄製馬具帯の鏡板で、断面長方形の厚さ0.5cmの角棒で心葉形状を呈し、一方に咬具部を造り出している。

第1表 上高山遺跡Ⅱ(H1号住居址)出土土器観察表

検出番号	種類	形状	法量	残存	成 形・調 整	胎土・焼成・色調	備 考
6-1	須恵器	蓋	(15.8) … (2.2)	口縁片	ロクロナデ→天井部部板ヘラケズリ→つまみ貼付(つまみ欠損)	胎土:白色粒子・黒色粒子を含む 焼成:良好 色調:黄オリーブ灰色	
6-2	須恵器	坏	— 6.9 (1.6)	底部分形	ロクロナデ→底部切り離し持ち持ちヘラケズリ	胎土:白色粒子・黒色粒子を含む 焼成:良好 色調:灰白色	
6-3	須恵器	系須恵	(8.7) — (6.4)	口縁片	ロクロナデ	胎土:黒色粒子を含む 焼成:良好 色調:内)灰白色 外)灰色	内外面に自然輪付者
6-4	土師器	甕	23.8 — (18.4)	口縁-胴上子 定形	口縁コロナデ・外胴胴部ヘラケズリ・内胴部ヘラナデ	胎土:砂粒を含む 焼成:良好 色調:によい藍色	
6-5	土師器	器台	(28.5) (22.0) 3.2	底部分	ロクロナデ→内蓋ヘラミダキ→高台貼付	胎土:砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	

2) F1号掘立柱建物址(第10図、写真図版二の2)

調査区西側中央から検出された。遺構の一部は調査区外の西側に続く。建物の平面形態は桁行2間・梁間2間以上で、柱の配置は側柱式である。長軸(桁行)の方位はN-25°-Wを指す。平面規模は桁行3.2m・梁間2.2m以上を測り、柱間寸法は桁行2.2m・梁間1.9mで、各柱間のばらつきは小さい。各柱穴の平面形態は円形を基調とし直径60~70cm・深さ43~62cmを測り、柱痕部分が一段低い。出土遺物は土師器坏・甕の小片が2点のみで時期は不明である。

3) F2号掘立柱建物址(第12図、写真図版二の3)

調査区の北西隅から検出された。遺構の一部は調査区外の西側に続く。D2号土坑に一部を破壊され、F5号掘立柱建物址の一部を破壊している。建物の平面形態は桁行2間・梁間2間で柱の配置は側柱式である。長軸(桁行)の方位はN-23°-Wを指す。平面規模は桁行3.5m・梁間3.3m、柱間寸法は桁行1.7m・梁間1.7m前後でばらつきは小さい。各柱穴の平面形態は円形を基調とし直径40~70cm・深さ25~41cmを測る。出土遺物は土師器甕、須恵器坏の小片のみで時期は不明である。

4) F3号掘立柱建物址(第13図、写真図版三の1)

調査区の北側の中央から検出された。H1号住居址の南半部と重複しH1号住居址の一部を破壊する。建物の平面形態は桁行3間・梁間2間で柱の配置は総柱式である。長軸(桁行)の方位はN-73°-Eを指す。平面規模は桁行6.2m・梁間4.2m、柱間寸法桁行2.1m・梁間1.9m前後で

ばらつきは小さい。各柱穴の平面形態は円形を基調とし直径30～60cm・深さ17～38cmを測る。出土遺物はなく時期不明である。

5) F4号掘立柱建物址(第14図、写真図版三の2)

調査区の北東から検出された。組み合わせが明確でないピット群と重複し一部の柱穴が破壊されている。建物の平面形態は桁行3間・梁行3間で柱の配置は総柱式である。長軸(桁行)の方位はN-19°-Wを指す。平面規模は桁行6.3m・梁間6.2m、柱間寸法桁行2.2m・梁間2.2m前後でばらつきは小さい。各柱穴の平面形態は円形を基調とし直径30～40cm前後・深さ24～56cmを測る。出土遺物は土師器甕の小片で時期不明である。

6) F5号掘立柱建物址(第15図、写真図版三の3)

調査区の北西から検出されたピット群・F2号掘立柱建物址と重複し一部の柱穴が破壊されている。建物の多くの部分が調査区域外にあるため、平面形態は明確ではない。P1～P6のありかたは、此付の建物址の可能性がたかい。検出部分の平面規模は、桁行11.2m、梁間4mと大形である。さらに、南側のピット群P5・P7・P11も本址に関係するピットの可能性もある。柱穴は円形を基調とし、直径30～50cm、深さ10～56cmを測る。時期は不明である。

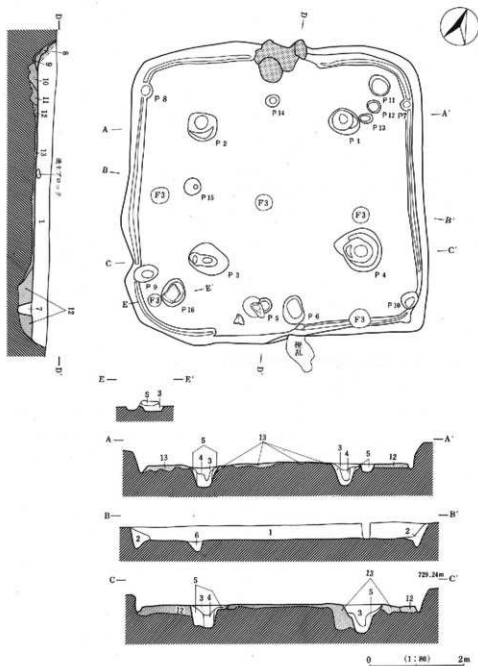
7) 土坑(第16～18図、写真図版三の4・5)

D1号土坑は長軸1.9m短軸1.2m深さ35cm内外の長方形、D2号土坑は径60cmの円形を呈するとみられる。D3号土坑は長軸3m短軸2mの長方形で瓦・陶磁器・鉄器が多く出土した。D1～3号土坑・井戸址は、少なくとも明治時代の始めか江戸時代末までであったという地主宅の関連遺構であろう。

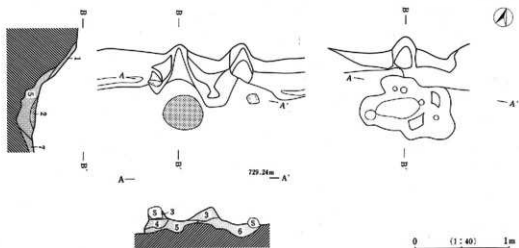
第2表 上山遺跡Ⅱ出土石器観察表

検出番号	出土遺構	器種	石質	法量 (cm)			備考
				長さ	幅	厚さ	
9-1	H1	凹石	軽石	17.5	13.2	7.7	
9-2	H1	磨石	安山岩	<5.2>	<11.2>	<3.3>	P4内出土。 一部欠損。
11-1	F1	磁器	玄武岩	11.3	9.3	3.4	
18-1	D3	砥石	流紋岩	<10.6>	3.0	2.3	一部欠損。
19-1	表探	打製石鏃	チャート	1.6	1.3	0.3	

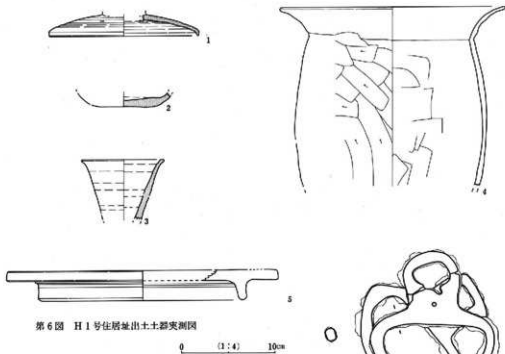
第2節 遺構と遺物実測図



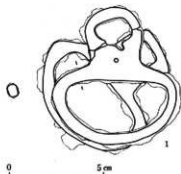
第4図 II 1号住居址実測図



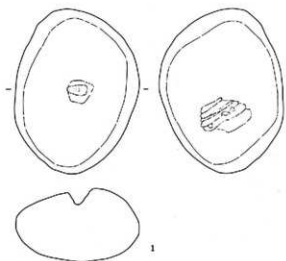
第5図 H1号住居址カマド実測図



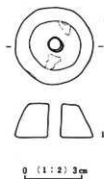
第6図 H1号住居址出土土器実測図



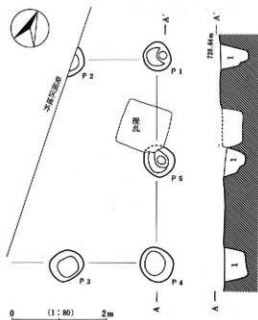
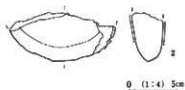
第7図 H1号住居址出土鉄器実測図



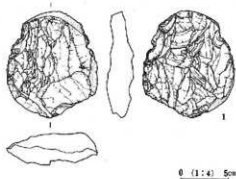
第9图 H1号住居址出土石器实测图



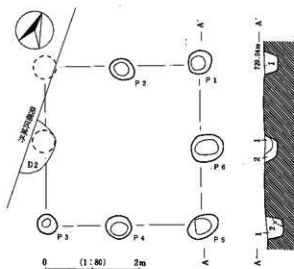
第8图 H1号住居址出土
纺锤形尖测图



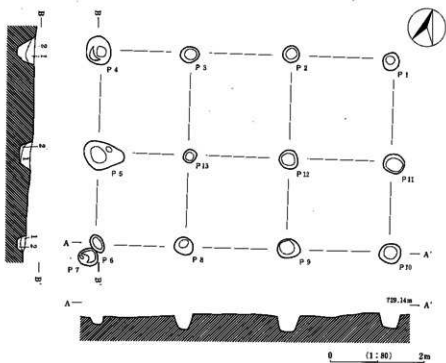
第10图 F1号孤立柱形建物址实测图



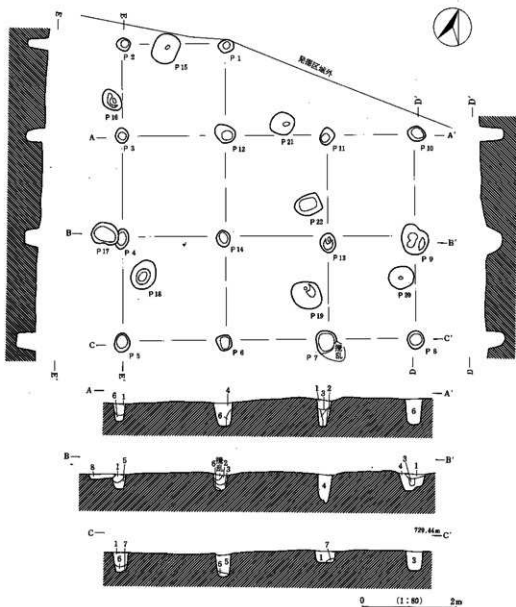
第11图 F1号孤立柱形建物址出土石器实测图



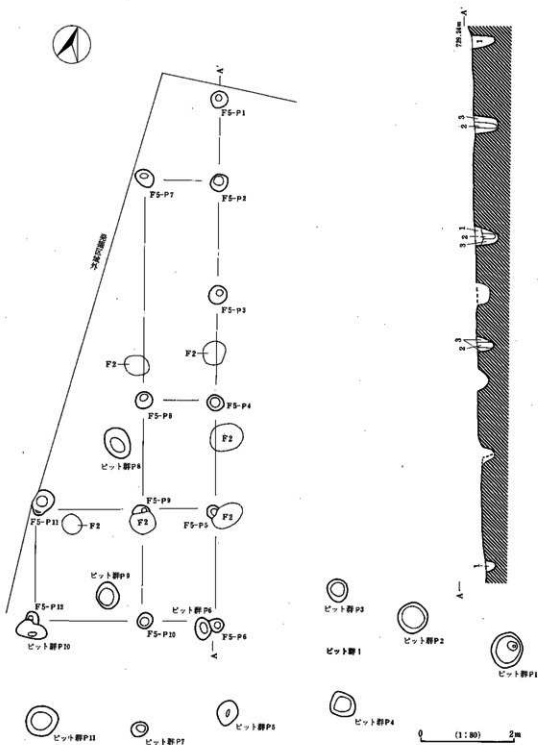
第12图 F 2号独立柱建物址实测图



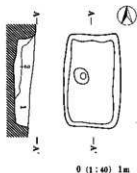
第13图 F 3号独立柱建物址实测图



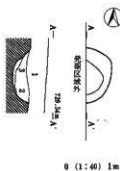
第14图 F4号榫立柱础遗址实测图



第15区 F5号掘立柱建物址実測図



第16図 D1号土坑実測図



第17図 D2号土坑実測図



第18図 D3号土坑出
土石器実測図



第19図 表層遺物実測図

土 層 説 明

H1号住居址土層説明

- 1層 黒色土 パミス(1cm大)を少量、ローム粒子を微量含む。(北側にカマドの土層・粘土・灰の溜った所あり)
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3層 黒褐色土 パミス(0.1cm大)を微量含む。
- 4層 褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 5層 褐色土 ロームが主。パミス(0.1cm大)を微量含む。
- 6層 褐色土
- 7層 褐色土 粘土ブロックを少量含む。(田カマド)
- 8層 褐色土 ローム粒子を微量含む。(田カマド)
- 9層 褐色土 粘土・炭化粒子・炭化粒子を少量含む。(田カマド)
- 10層 暗赤褐色土 粘土・炭化粒子・炭化粒子を少量含む。(田カマド)
- 11層 黒褐色土 ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子を少量含む。
- 12層 暗褐色土 明褐色土をブロック状に含む。
- 13層 暗褐色土 黒褐色土をブロック状に含む。

H1号住居址カマド土層説明

- 1層 褐色土 粘土
- 2層 暗赤褐色土 焼土
- 3層 赤褐色土 灰を少量、パミス(0.1cm大)を微量含む。粘土層。
- 4層 黒色土 ローム粒子を少量、パミスを微量含む。
- 5層 褐色土 粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子を少量含む。
- 6層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 7層 黒褐色土 ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子を少量含む。

F1号独立柱建物址土層説明

- 1層 黒色土 パミス(0.5cm以下)を微量含む。

F2号独立柱建物址土層説明

- 1層 黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。

F3号独立柱建物址土層説明

- 1層 黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 2層 黒褐色土 灰くしまる。ローム粒子を少量、パミスを微量含む。

F4号独立柱建物址土層説明

- 1層 黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 2層 褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3層 黒褐色土 褐色土を含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 6層 褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 7層 褐色土 灰くしまる。
- 8層 黒褐色土

F5号独立柱建物址土層説明

- 1層 黒褐色土
- 1層 暗褐色土
- 2層 黒褐色土 柱底
- 2層 黒褐色土 柱底
- 3層 暗褐色土 埋め土
- 3層 暗褐色土 埋め土

D1号土坑土層説明

- 1層 黒褐色土 黒色土を少量含む。
- 2層 黒褐色土 炭(0.5cm大)を少量含む。

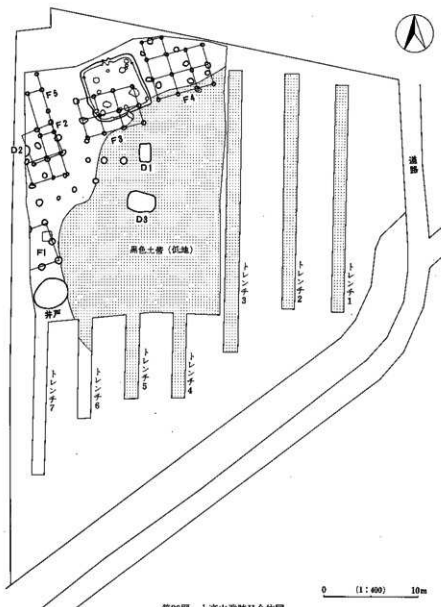
D2号土坑土層説明

- 1層 暗褐色土
- 2層 暗褐色土
- 3層 黒褐色土 パミス(1cm大)・ローム粒子を少量含む。ローム粒子を少量、パミス(1cm大)を微量含む。

第V章 調査の成果

本遺跡は芝宮遺跡群が展開する「田切り」白地が、いったんその幅を狭めようとする地点に位置している。隣接した芝宮遺跡の第1次～第3次調査では、縄文時代の土坑、中世の堅穴状遺構が検出されているが、古墳～平安時代の住居址は発見されていない。この調査地区に続いて調査された上高山遺跡Iでは、古墳時代および平安時代の住居址が検出されている。これらの調査・

および今回の調査区の西側に遺構が集中して存在するという調査の結果から、上高山遺跡Ⅰで検出された古墳時代住居址・平安時代住居址、本遺跡の奈良時代の住居址は、いずれも、該期の集落の東端に位置しているものと考えられ、集落の中心は西側の台地縁辺部にあると思われる。



第20図 上高山遺跡Ⅰ全体図



1. 上高山遺跡Ⅱ遺構全景 (南から)



2. 上高山遺跡Ⅱ遺構全景 (東から)



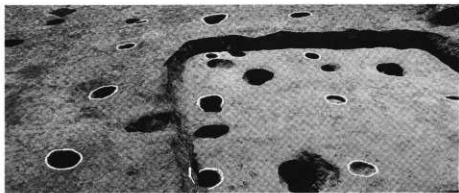
1. H1号住居址 (南から)



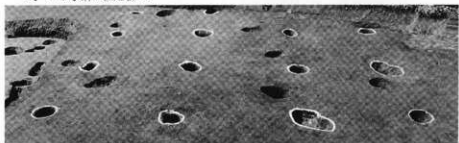
2. F1号掘立柱建物址 (南から)



3. F2号掘立柱建物址 (南から)



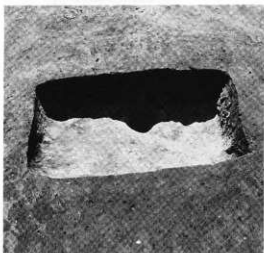
1. F 3号独立柱建物址



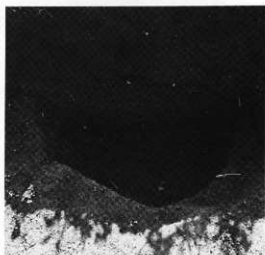
2. F 4号独立柱建物址



3. F 5号独立柱建物址



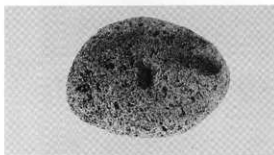
4. D 1号土坑



5. D 2号土坑



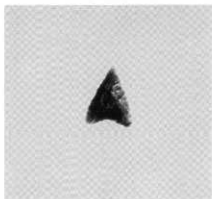
1. H 1号住居址出土土器



5. H 1号住居址出土石器



6. F 1号掘立柱建物址出土石器



10. 表採石鎌



2. H 1号住居址出土土器



3. H 1号住居址出土土器



4. H 1号住居址出土土器



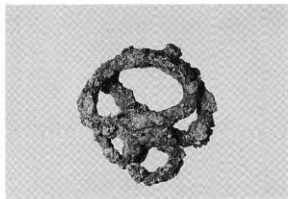
7. H 1号住居址出土紡錘車



8. H 1号住居址出土石器



9. D 3号土坑出土石器



11. H 1号居址出土馬具

長野県佐久市

佐久市埋蔵文化財調査報告書第13集
上高山遺跡Ⅱ発掘調査報告書

1992年3月

編集者 佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター

発行者 佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター

印刷所 信毎書籍印刷株式会社
